

鹿児島県小中学校長研究大会 分科会記録

○ 日時 令和6年11月15日(金)12:40~14:00

○ 分科会 I 小学校 第6分科会

「健康・安全教育」

○ 研究主題

「健やかで、たくましく生きる力を育む健康・安全教育」

○ 協議題

「自ら進んで心を鍛え、たくましい心と体を育てる健康教育の推進」

○ 発表者 鹿児島市立星峯東小学校 福留 健之

○ 司会者 鹿児島市立皇徳寺小学校 有村 暢高

○ 記録者 鹿児島市立星峯西小学校 永里 智広

【質疑応答】

(質問：指宿市立柳田小学校 宮路 直子)

- ・ 様々な職員、子供・保護者・地域の人々がいる中で、校長としてどのようなことに留意しているか。
- ・ 今後、健康安全について考えていることは何か。

(応答：鹿児島市立星峯東小学校 福留 健之)

- ・ 職員とのコミュニケーションを積極的に図っている。例えば、朝の時間は、職員の健康状況の確認や個々の不安を取り除くために、校長室で話をするようにしている。
- ・ 教育課程にあるものを確実に進めることが大切だと考えている。今後は、もっと子供の活躍の場を前面に出しながら進め、元気で活気のある学校にしていきたい。

(感想・意見：鹿児島市立南小学校 高味 修一郎)

- ・ どの学校でも健康・安全教育は進めていると思う。星峯東小のように、それを確実に取り組み、充実させていくことが大切ある。そのためにも、体力向上、給食・食育、学校安全等を連動させていくことが重要である。

また、体育授業にも力を入れたい。運動に親しむ資質や能力を育てる意味で、主体的な体力つくりにつながる。

【グループ討議後の班ごとの発表】

(E班：曾於市立光神小学校 三原 俊宏)

・ 主に、食育の重要性が話題になり、各校の実践例で参考になる点が多かった。桜洲小は、栽培が難しい桜島大根を育てる中で、喜びや苦労を重ねながら、命を育てるという貴重な学びが実践されていた。

高来小では、米作りの作業を生産者と語りながら進めるとともに、最後は価格設定まで子供たちに考えさせていた。また、PTA組織に位置付けてある田んぼ係の方々や地域の方々の協力もあり、貴重な体験活動となっている。

光神小では、自作のサツマイモと柚子農家及び地元加工食品業者と連携してカレー作りを実施した。作物も命あるものであり、大切にしなければならないという意識が高まった。給食の残食も減ってきている。

また、古仁屋小では、課題となっているメディアとの関わり方について、家庭との連携を進めている事例の報告があった。

(A班：鹿児島市立清水小学校 竹下 健一郎)

- ・ 教職員のメンタルヘルスについて多くの意見が出された。

職員間のコミュニケーションが課題であり、スト

レスを感じている職員が多い。また、職員によって業務改善に対する認識が異なり、熱心に業務にあたっている職員がやる気を失うケースも少なくない。そのことで、校務分掌組織が機能しない状況がある。

- ・ 保護者対応において担任だけでは解決できないケースが増えてきており、校長対応が多くなっている。これまで以上に、同僚性を発揮し、組織対応を工夫していく必要がある。

(F班：鹿児島市立宮川小学校 茶屋 大作)

・ 教育環境の大事さを痛感する。清潔できれいな環境が、人を守り人を創っていく。一つの手立てとして清掃の徹底を図っている。

- ・ 体力づくりは、継続することが難しい。教科体育の改善を進めつつ、時間外であっても子供が主体的に取り組むようにしていきたい。また、教育課程にある具体的な取組を、全ての学年がきちんとやること、そのために職員個々の実践力を高めていけるようにしていきたい。

鹿児島県小中学校長研究大会 分科会記録

○ 日 時 令和6年11月15日(金) 14:15~15:25

○ 分科会Ⅱ 小学校 第6分科会

「健康・安全教育」

○ 研究主題

「健やかで、たくましく生きる力を育む健康・安全教育」

○ 協議題

「自ら危険を予知し、安全に行動する能力や態度を育てる安全教育の推進」

○ 発表者 徳之島町立亀徳小学校 越間 むつみ

○ 司会者 徳之島町立亀津小学校 池田 昌弘

○ 記録者 徳之島町立母間小学校 山本 克久

【質疑応答】

(質問：伊作小 福元 賀博)

- ・ 予算確保について、どのような経緯で外部団体事業に応募したのか。
- ・ 外部団体名、補助額等、可能な範囲で教えていただきたい。

(応答：亀徳小 越間 むつみ)

- ・ 防災についてネット検索する中で見つけたり、青少年赤十字の研修会に参加した際、事業情報をいただいたりした。
- ・ R5「アクサユネスコ協会減災教育プログラム」
主催：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 10万円

R6鹿児島県青少年赤十字活動推進事業

主催：日本赤十字社鹿児島県支部 5万円

(質問：宿利原小 濱田 直子)

- ・ 避難道の設置にあたり、町教委や関係機関と、どのように進めていったのか。

(応答：亀徳小 越間 むつみ)

- ・ 赴任前より設置依頼は要望している経緯はあった。R4年度からの学校の積極的な防災教育への取組を機会に、町議や地区役員と連携を図り実現した。

(質問：柏原小 橋口 大士)

- ・ 徳之島町北部にある東天城中校舎新築計画に関して、設計段階での校長の係り、地域防災拠点としての役割等、把握している範囲で教えていただきたい。

(応答：亀徳小 越間 むつみ)

- ・ 校長は、工程会議に参加していたが、設計に関しては直接関与していない。地域防災拠点に関しては、

4~5mの盛土をした後、新校舎建築に至っているが、地域防災拠点としての役割は担っていない。

【グループ討議後の班ごとの発表】

(I班：天降川小 大山 政弘)

- ・ この取組のスタートの状況が話題となった。防災教育を経営の柱に据える際、校長の思いや職員の受け取り方について、もう少し詳しく知りたい。

(補足：亀徳小 越間 むつみ)

- ・ 前任地、隣接保育所が毎月訓練をしていたことや令和4年1月津波警報による避難を実体験したことで、必要性を強く感じた。特別な行事・活動は新設せず、朝活動や清掃の時間帯を活用した毎月の継続訓練に意味があることを説明し、職員の理解を得た。

(H班：菱田小 平山 淳郎)

- ・ 防災訓練の実効性を高める、回数を重ねる、シンプルな流れにする、そして、個での対応力を身に付けさせることが必要であるなど意見が出された。

【指導助言】

県教育庁保健体育課健康教育係主任指導主事兼係長

栗山 稔久

(発表内容から)

- ・ 1校目の発表は、健康教育の側面を保健、体育、食育指導から迫り、各領域が一体となった取組である。また、教育課程に位置付けられたものを丁寧に確実にやっている。
- ・ 2校目の発表は、災害安全を柱に児童・職員の意識向上、実効性、情報発信など、校長のリーダーシップのもと経営されている。また、外部機関との連携も密に行われている。

(県教委として等)

- ・ 歯と口の健康について、治療率向上以前に、学校・家庭における歯磨き指導等の予防教育の充実を図っていただきたい。
- ・ 「釜石の出来事」などの教訓や防災マップ作成、活用など、学校・家庭・地域が互いに発信し合い、防災教育の推進を図っていただきたい。

(メッセージ)

- ・ 一番大事なことは、【児童生徒の健康】である。「一人で帰らないように」「歯磨きして寝るよ」など、一日一声ある学校でありたい。

(記録 母間小 山本 克久)